

## 13章 否定2

### 問題

#### 【1】

##### 解答・解説

- (1) **b** 「私の英語は未熟だから、私はもっと勉強しないとイケない。」  
○ far from ~ = anything but ~ = never ~
- (2) **d** 「真夜中に電話するような愚かなことはしないべきだ。」  
○ know better than to do 「…しないだけの分別がある」  
＜ know better 「分別がある」
- (3) **a** 「すぐに私は同じ車両にいた1組の夫婦と友人になりました。」  
○ no は time を修飾する（語修飾）のみで、in no time は「まもなく；すぐに」という肯定的な意味を持つ副詞句と言える。つまり、全体としては肯定文で、did I make という倒置形にする必要はない。
- (4) **a** 「科学技術が現在ほど大きく進歩した時代は他になかった。」  
○ Technology has not made such great advances at any time as at present. という文の not + at any time が文頭に出た結果、その後が倒置形になったものとする。at no time は文全体を修飾する（文否定）の副詞句であるから、その後は必ず倒置形が続く。
- (5) **b** 「あの時部屋に入るべきだったのに。」「でも、彼らが着替えている時に入っていくことなんてできなかったでしょう！」  
○ impolitely 「失礼にも」  
○ impossibly は「途方もなく」という意味で、動詞を修飾しない。

#### 【2】

A.

##### 解答・解説

- (1) least  
(X) 「それについて彼女が言ったことを私は全く理解できない。」  
○ not in the least = never 「決して～ない」  
(Y) 「最後に大切なことを忘れていましたが、あなたたちが皆最善を尽くし、勝利の栄冠を掴むことを希望します。」  
○ last but no least 「最後の大きな理由として」
- (2) nothing  
(X) 「これは冗談にすぎない。気にするな。」  
○ nothing but ~ = only ~ 「～にすぎない」  
(Y) 「国連が達成しようとする役割は、他ならぬ世界平和の維持です。」  
○ nothing less than ~ 「～に他ならない」

(3) never ※ (X) の空所には Never と大文字にして入れること。

(X) 「ボブに体調を聞くといつも、『絶好調!』と答える。」

○ Never better! 「最高!」 cf. It couldn't be better. (最高です。)

(Y) 「彼女の笑顔はいつも私を元気にしてくれます。」

○ never fail to do 「必ず…する」 cf. fail to do 「…できない」

(4) not

(X) 「アレックスは辛抱できず、口を開いた。」

○ too ~ not to do 「～なので…する」

(Y) 「秋には多くの日本人が紅葉狩りを楽しめます。」

○ not a few ~ = quite a few ~ 「かなり多くの～」

B.

**解答・解説**

beyond description [words ; expression]

(X) 「あなたは私が窓から見た夕日の美しさを言葉では到底説明できないでしょう。」

(Y) 「私が窓から見た夕日の美しさは言葉では全く言い表せませんでした。」

○ beyond description 「言葉では説明できなくらい」

他に, beyond words や beyond expression という表現もある。また似たような否定表現としては, beyond control (制御できない), beyond my mind (私には理解できない), beyond comprehension (理解できない), beyond doubt (疑う余地のない) などがある。

**【3】**

**解答・解説**

(1) Tempted as they were to open the parcel, (they waited patiently until everybody was present.)

「彼らは包を開けたくなくなったけれども、みんなが来るまで我慢強く待った。」

○ ‘形容詞・分詞・名詞(無冠詞)など + as [though] + S V’ 「…だけれども」《譲歩》  
= Though they were tempted to …

○ be tempted to do 「…する気になる」 < tempt O to do

(2) (His report) was written in so careless a manner that (I refused to read it.)

「彼の報告書は非常に不注意に書かれていたので、私は読むことを断った。」

○ so ~ that … 「非常に～なので…」

○ ‘so + 形容詞 + a + 名詞’ の語順に注意する。

cf. such + a + 形容詞 + 名詞

= His report was written in such a careless manner that…

○ in ~ manner 「～な方法で」

(3) (I) never read this book without being reminded of (my old days.)

「この本を読むたびに昔の日々を思い出す。」

○ never ~ without …ing 「…なしで～ない; ~すると必ず…する」《二重否定》

= Whenever ~, ...

○ being reminded of ~ < remind O of ~ 「Oに～を思い出させる」

- (4) There is no knowing when a severe earthquake (will happen in Tokyo.)

「大地震がいつ東京に起きるかはわからない。」

○ there is no ...ing 「…することはできない」 [= it is impossible to do]

- (5) (When I called on him,) I found him taking a nap lying at full length on the  
(verandah.)

「私が訪ねた時、彼は縁側で大の字になって寝ていた。」

○ find O ...ing 「Oが…しているのを見つける」

○ take [have] a nap 「うたた寝する；昼寝をする」

○ lying は付帯状況を表す現在分詞。

○ at full length 「①手足を十分に伸ばして ②詳しく」

- (6) (He is not my best friend, but) he is on speaking terms with me.

「彼は私の親友ではないが、互いに言葉を交わす間柄だ。」

○ be on ... terms with ~ 「～とは…する間柄である」

cf. on first name terms 「名前で呼び合う（ほど親しい）仲」

- (7) Besides being home to native peoples, (the rain forests produce much of the world's oxygen.)

「現地の民族にとっての故郷であるだけでなく、熱帯雨林は地球上の酸素の多くを生み出す。」

○ besides ...ing 「…するのに加えて」

- (8) (Prices are) one and a half times higher than two years (ago.)

「物価は2年前の1.5倍上がった。」

○ ~ times ...er than A 「Aよりも～倍…で」 = ~ times as ... as A

○ one and a half 「1.5」

- (9) (Ask somebody) who knows Kate what she is like.

「ケイトを知っている誰かに、彼女はどんな人かを聞いてごらん。」

○ somebody を関係詞節でまず修飾し、その後に ask の直接目的語になる名詞節を持ってきて間接疑問文を作る。

○ what is S like? 「Sはどのような物〔人〕か；Sはどんな様子か」

- (10) (At) no time in history have women (been playing such a significant role as today in the world.)

「歴史において、今日ほど世界において女性が重要な役割を果たしている時代はなかった。」

○ 文否定の否定語句が文頭に出た倒置形。〔否定語句＋疑問文の語順〕

○ such A as B 「BのようなA」

#### 【4】

A.

**全訳**

生物の世界全体の中で、①島の生物のその環境に対する関係ほど、微妙にバランスのとれた関係は他にあるかどうか疑わしい。この環境は極めて一定した環境である。②大洋の真ん中では、めったに方向を変えることのない海流と風に支配されているので、気候にはほとんど変化がない。③外敵はほとんど、ひよっとするとまったくない。大陸での生活では普通の状態である厳しい生存競争は、島では緩和される。④この温和な生活様式が突然変わる時、島の生物は新たな状況に適応することがほとんどできない。

B.

**全訳**

大学時代というのは、人が広い思想に触れるべき時なのである。最も大学ですべきでないことは、職業のための訓練をすることである。私はもっと教養的な教育をし、専門教育を減らすことに賛成である。なぜなら専門のことは、後に仕事についてから修得できると思うからである。

C.

**全訳**

人種差別は人類の存在と同じくらいの歴史がある。なぜなら、どんなにわずかな差異でもある人は仲間外れとして特徴づけられ、そういうわけであざけるべき、あるいは恐れるべき人として特徴づけられるのである。新入りの子供をある子供の集団に入れ、その子供に少し違うスタイルの洋服を着せたり、少し違うアクセントで話をさせて、すぐに彼が非難的にされる対象として目立つようになるのを観察してごらん下さい。洋服がより清潔だということやアクセントがより正確だという点で他の者と違っていてもそのことは問題ではない。結果は同じである。鍵となる語は「よりよい」でもなく、「より悪い」でもない。それは単に「他の子と異なる」なのである。

#### 【5】

**解答**

- (1) ① of      ② with      ③ in  
 (2) ① チョッキのポケット  
      ② (チョッキのポケットがあり、そこから取り出す懐中時計を持った) ウサギ  
 (3) 「全訳」の下線部①, ②参照。

**解説**

- (1)  
 ① 「～にうんざりして [飽き飽きして]」は be tired of ～。ここでの動詞 get は「～ (の状態) になる」の意味。  
      cf. be tired from ～ (～に疲れて)  
 ② a White Rabbit の特徴を ( ③ ) pink eyes で描写している。人物・物を「描写」するのは前置詞 with である。ℓ. 14 の③も同じ。

© be in time to *do* 「… するのに間に合って」

(2)

Ⓐ ℓ. 14 that she had never before seen a rabbit with either a waistcoat-pocket, or a watch to take out of it は、次のような構造になっている。

that ... a rabbit with either  $\left\{ \begin{array}{l} \text{a waistcoat-pocket} \\ \text{or a watch to take out of it} \end{array} \right.$   
↓  
take a watch out of it 「it から時計を取り出す」

したがって、it = a waistcoat-pocket 「チョッキのポケット」のこと。

Ⓑ ℓ. 12 when the Rabbit actually *took a watch out of its waistcoat-pocket*, and looked at it, and then hurried on, Alice started to her feet (ウサギがチョッキのポケットから懐中時計を本当に取り出して、それを見てから急いで走り続けた時、アリスは急に立ち上がった) がヒントになるであろう。ℓ. 15 she ran across the field after it の after は「～を追いかけて；～を追跡して」の意味である。the Rabbit と Alice の位置関係を考えれば、答えは明らか。

(3)

①

◇ nothing so very remarkable : 語順に注意。something, nothing, someone, somebody, somewhere など、-thing, -one, -body, -where のついた表現を修飾する形容詞 (句) は、これらの後に置かれる。

◇ in that : that は前文の内容を指している。つまり、「その時突然、赤い目をした白ウサギが1匹彼女のすぐそばを駆け抜けたこと」である。

◇ nor did Alice think : 否定語 nor を文頭に置いた倒置形。

◇ it : to hear the Rabbit say to itself を指す形式目的語。hear は知覚動詞で、O + 原形不定詞を伴う。「O が～するのが聞こえる」の意味。

◇ out of the way 「普通と違った；異常な」

◇ say to itself 「独り言を言う」

◇ “Oh dear!” : 「驚き、困惑、あせり」などを表す。「おやおや；あらまあ；大変」 = “Dear dear!” “Dear me!” (“Oh dear!” が最も一般的)

②

◇ it occurred to her that ... 「… のことが彼女の頭に浮かんだ；… のことが彼女に思い出された」

◇ she ought to have wondered at this : ought to *do* は「…すべきである」。後に ‘have + 過去分詞形’が続く場合は、「過去において実際にはしなかったことであるが、そうすべきだった」という意味を表す。this は前文全体、または一部の内容を指す。ここでは to hear the Rabbit say to itself, “Oh dear! Oh dear! I shall be late!” のこと。

◇ it all seemed quite natural : it は this を指している。seem は「～のように思われる」、all は「すっかり；まったく」の意味で、強調を表す。quite も強調表現である。

アリスは土手で姉のそばに座り、何もすることがないことに飽き始めていた。1, 2度彼女は姉が読んでいる本を覗き込んだが、そこには絵や会話がなかった。「絵や会話のない本が何の役に立つの？」そうアリスは考えた。

それで彼女は心の中で、ひな菊の首飾りを作る楽しみが、起き上がってひな菊をつむ労力にふさわしいものであるかどうか考えていた（彼女にできる程度に、であった。なぜならば、暑い日であったために、彼女はとても眠く、ぼんやりとしていたからだ）。その時突然、赤い目をした白ウサギが1匹彼女のすぐそばを駆け抜けた。

①そのことに大して変わった点はなかったし、またアリスは「おやおや、遅れてしまう！」とウサギが独り言を言ったのを聞いても、大して変だとも思わなかった（後になってよく考えてみると、②このことを不思議に思うべきであったと気づいたけれど、その時は極めて自然なことに思われた）。しかし、ウサギがチョッキのポケットから懐中時計を本当に取り出して、それを見てから急いで走り続けた時、アリスは急に立ち上がった。なぜならば、これまでチョッキのポケットのあるウサギも、そこから取り出す懐中時計を持ったウサギも、見たことがないという考えが、彼女の脳裏をさっとよぎったからである。それで、好奇心に燃えながら、それを追って野原を横切り、それが生け垣の下の大きな兎穴にポンと落ちるのを見るのに、幸運にも間に合った。

次の瞬間に、アリスは一体どのようにしてもう1度抜け出したらいいかを1度も考えずに、それを追って降りた。

## 注

- ℓ. 1 ◇ bank 「土手；堤防」
- ℓ. 2 ◇ once or twice 「1, 2度」（「回数」を表している）
  - ◇ peep into ～ 「～を覗き込む」
  - ◇ the book her sister was reading : the book (which) her sister was reading のように関係代名詞が省略されていると考えればよい。
- ℓ. 3 ◇ it had no pictures or conversations in it : it はいずれも the book her sister was reading を指している。
- ℓ. 4 ◇ without pictures or conversations 「絵や会話のない」
  - the book の特徴を「描写」している。
- ℓ. 5 ◇ as well as she could : well は副詞で、「十分に；よく」の意味。
  - ◇ for : 接続詞で、前文に対する理由を述べる場合に用いられる。
  - ◇ make O do 「O に…させる」
- ℓ. 6 ◇ be worth ～ 「～の価値がある」
- ℓ. 7 ◇ the trouble of getting up and picking the daisies : of は同格を表す。
- ℓ. 8 ◇ close 「すぐそばを；すぐ近くを」
- ℓ. 11 ◇ think ～ over 「～を熟考する；～をよく考える」
  - ◇ afterwards = afterward
- ℓ. 12 ◇ actually 「実際に；現に」
  - ◇ take ～ out of … 「～を…から取り出す」

- ℓ. 13 ◇ hurry on : hurry は「急ぐ」, on は「ずっと ; どんどん」の意味で, 動作の継続を表している。
- ◇ start to *one's* feet 「急に立ち上がる」
- ℓ. 15 ◇ curiosity 「好奇心」
- ◇ run across ~ : ここでの across は「~を横切って」。「偶然~に出くわす ; 偶然~を見つける」という意味の run across ~ではない。
- ℓ. 16 ◇ fortunately 「幸運にも ; 運よく」
- ◇ just 「ちょうど ; ぴったり」
- ◇ see it pop down : see は知覚動詞。it は the Rabbit のこと。
- ℓ. 18 ◇ in another moment 「次の瞬間に」
- ◇ down went Alice after it : 副詞を文頭に置いた倒置形。
- after 「~を追いかけて ; ~を追跡して it は the Rabbit のこと。」
- ◇ never once considering ~ 「1度も~を考えずに」《分詞構文》
- ◇ in the world : 疑いの気持ちを強める表現。
- ℓ. 19 ◇ she was to get out : ここでの be to *do* は「…すべきである」

## 【6】

### 解答・解説

- (1) Hardly ever have we seen such a beautiful starlit night.  
hardly ever = almost never である。否定の副詞を文頭に持ってきたら倒置にすることを忘れないようにしたい。
- (2) I didn't think that anybody would object to me.  
英語では「否定はなるべく相手に早く知らせたほうがよい」とする傾向がある。したがって, I thought that nobody would object to me. よりも, I didn't think that anybody would object to me. が好まれる。このような否定の繰り上げが起こるのは think, believe, suppose, imagine など思考を表す動詞の時である。なお, hope や fear, be afraid などでは, このような not の繰り上げは起こらないため注意。
- Ex. 「彼は正しくないと思う。」
- × I think (that) he is not right.  
○ I don't think (that) he is right
- (3) You never walk far in this village without someone greeting you.  
cannot [never] ~ without ...ing 「…することなしに~できない」→「~すれば必ず…」
- (4) You are the last person (that) I would expect to be here.  
the last が比喩的に用いられると least likely (最もしそうにない) の意味になる。
- Ex. She is the last person to tell a lie.  
(彼女は嘘をつく最後の人です。) → (彼女は決して嘘をつくような人ではありません。)
- (5) Both identical twins are not exposed to the same environmental factors.  
Both ~ not …は部分否定にもなることに注意。

cf. Both are not correct. (両方とも正しいわけではない。)

Neither is correct. (どちらも正しくない。)

- (6) It is said that women hate to be approached. Nothing could be further from the truth.

Nothing could be further from the truth. は決まり文句で「これほど真実からかけ離れたことはないだろう」という意味になる。further は far の比較級であり farther でもよいのだが、この使い方では一般に further の方を使用することが多い。

## 【7】

### 解答・解説

- (1) see

(a) 「私に任せて下さい。何とか取り計らいます。」

○ see to ～ 「～をうまく取り計らう」

e.g. see (to it) that … (…であるよう取り計らう)

(b) 「私は彼女を課長として見なすことができない。」

○ see A as B 「AをBと見なす」 (= regard)

- (2) do

(a) 「そこはとても寒いのでオーバーなしではやっていけない。」

○ do without ～ 「～なしで済ませる」

(b) 「彼女のこの写真は実物どおりに写っていない。」

○ do O justice = do justice to O 「Oを公平に評する；Oを実物どおりに表す」

- (3) mind

(a) 「タバコを吸ってもかまいませんか。」「はい、どうぞ。」

○ Do [Would] you mind my …ing? 「…してもかまいませんか」

cf. Do [Would] you mind …ing? 「…していただけますか」

(b) 「40にして人生はまだ半分残っているということを心に留めておきなさい。」

○ keep O in mind [keep in mind O] 「Oを心に留めておく」

- (4) follow

(a) 「善良だからといって、賢いということにはならない。」

○ it follows that … 「当然の結果として…となる；…という結論になる」

(b) 「彼はとても速く話したので、私は彼の言うことが理解できなかった。」

○ follow には「(話等を)理解する (= understand)」の意味もある。

○ so ～ that … 「非常に～なので…」

- (5) sound

(a) 「彼は彼女の声の響きにぞっとした。」

○ この場合 sound は「(声・言葉)の調子〔響き〕」の意味。

(b) 「妙に聞こえるかも知れないが、欠点があるのでなおさら彼が好きだ。」

○ sound C 「Cのように聞こえる」(不完全自動詞)

○ ‘形容詞(副詞, 名詞〔無冠詞〕) + as [though] + S V’ 「…かもしれないが」《譲歩》



○ all the better for ～「～のためにより一層…」

(6) make

(a) 「暗闇で人々の顔が見分けられなかった。」

○ make O out 「①Oを作成する；書く ②Oを何とか認める；見分ける ③Oを理解する ④Oを証明する」

(b) 「歓声にかき消されて彼の声は聞こえなかった。」

○ make O *done* 「Oを…させる」

○ above 「～を越えて；(音が) ～よりも大きく」 [= over]

(7) stand

(a) 「彼にはこれ以上我慢ならない。」

○ 他動詞の stand には「我慢する；耐える (= bear)」の意味がある。

(b) 「夕闇の空を背に山は際立っている。」

○ stand out 「①突き出る ②際立って見える；目立つ」

○ 比較・対象を表す against 「～を背景にして；～と対比して」

(8) go

(a) 「彼は最近の俳優にしてはいい俳優だ。」

○ as ～ go 「～としては」(善悪の価値判断について言う)

(b) 「彼の計画はうまくいかなかった。」

○ go well 「うまくいく」

(9) face

(a) 「窓は南向きだ。」

○ 「～の方向に向いている；～に面している」の意の face。

(b) 「我々はこの問題を正視しなければならない。」

○ 「(困難・危険などに) 立ち向かう；直面する」の意の face。

(10) hand

(a) 「彼女はその日暮らしをしている。」

○ live from hand to mouth 「その日暮らしをする；備えをせずに暮らす」

(b) 「クリスマスが近づいている。」

○ at hand 「間近に」

(11) point

(a) 「彼は私たちのそれぞれの誕生日を覚えるようにしている。」

○ make a point [habit] of …ing 「…することになっている」 (= make it a point [habit] to do)

(b) 「残念ですが、あなたの主張の論点が理解できません。」

○ miss the point (of ～) 「(～の) 要点を捕らえ損なう」

(12) help

(a) 「私はその知らせを耳にした時、泣かずにはいられなかった。」

○ cannot help …ing = cannot but do 「…せざるを得ない」

(b) 「(ご遠慮なく) ケーキを召し上がってください。」

○ help oneself to ~ 「～を自分でとって食べる〔飲む〕」

## 【8】

### 解答

- (1) Look up his name in the telephone directory.
- (2) How did you clear up that matter?
- (3) Do you have a minute?
- (4) Do you have the time?
- (5) The shirt is inside out.
- (6) The picture is upside down.

### 解説

- (1) 「電話帳」に対応する英語は a telephone [phone] book [directory]。「(辞書や電話帳などで) ～を調べる; 探す」という時は look ~ up [look up ~] in ... を用いる。なお「～(辞書など)をひく」の意の「～を調べる」は see または consult を用いる。

cf. See [Consult] your dictionary for the meaning of the word.

Look up the word in the dictionary.

(その意味を辞書で調べなさい。)

- (2) 「その問題を解決する」は settle [solve] the matter で表されることは知っていると思うが, settle や solve の代わりに clear up という句動詞も用いることができることも知っておこう。

- (3) 「ちょっと時間ありますか」に対応する決まり文句は

Do you have a minute?

Do you have a minute to spare?

イギリス英語なら, Have you got a minute? となる。「ちょっと」という日本語に固執しないで内容をとれば,

Do you have time (now)? (無冠詞である点に注意)

Are you free (now)? となる。

なお「話したいことがあるので, ちょっと時間がありますか。」という意味を考えれば

May I talk with you for a few minutes?

となる。いずれにしてもどれも自然な英語である。状況を考えて使い分けよう。

- (4) 「do で始めて」という条件があるので「今何時?」は

Do you have the time (on you)? (the がつく点に注意) と表現できる。

(×) Do you have the time now? と now をつけるのは普通ではない。

「今何時ですか。」の意味を表す他の決まり文句を列挙しておこう。

What time is it (now)?

What is the time?

What time do you have?

What time have you got?

Have you got the time (on you)?

May I ask the time? (今何時か聞いてもよろしいでしょうか。)

Could you tell me what time it is now? (今何時か教えていただけますか。)

※間接疑問文の語順に注意

Could you tell me the time? (今何時か教えていただけますか。)

- (5) 「～は裏返しです」は入試で頻出する表現の一つで, be inside out である。したがって, 本問は The shirt is inside out. となる。また, inside の代わりに wrong side を用いて The shirt is wrong side out. としてもよい。

なお, 「ワイシャツを裏返す」と言いたい時は turn a shirt inside out と言うことも覚えておこう。(「ワイシャツ」は a shirt でよい。なお, 日本語の「肌着」の意味で用いる「シャツ」は英語では an underwear である。)

- (6) 「～はさかさまである」も入試で頻出する表現の一つで, be upside down [upside-down] となる。したがって, 本問は The picture is upside down. とすればよい。

なお, upside down はあくまでも位置関係のさかさまという意味であって, 「アルファベットをさかさまに言う」の「さかさま」のように「後方から」という意味の場合は, backward を用いて say the alphabet backward とする点にも注意。

#### 今日の一言

No autumn fruit without spring blossom. 「蒔かぬ種は生えぬ。」

二重否定の表現だが, 直訳でも通じる。「春に花が咲かなければ秋の実りもない」。これは「原因がなければ結果はない。」「努力しなければよい結果は得られない。」などの意味で使われる。ここまでの学習は山あり谷ありで, 時には大変な努力を重ねたこともあったと思うが, これも全ては「秋の実りのため」。諸君の英語力が着実に向上していることを願ってやまない。









会員番号	
------	--

氏 名	
-----	--